

審判の基本事項

審判員の心得

公正な判定を行い、試合をスムーズに進行すること

判定は明確に断固として下しますが、伝え方は選手と同じ目線で丁寧に行うこと

違反を見つけて取り締まるのではなく、選手がゲームに集中できるように環境を整えること

選手とコミュニケーションをとること(無視しない・選手の表情をみる)

大きな声でアナウンス・コールをすること

1 コートと道具のルール

パーマナント・フィクスチャ

・コートの常設物(カベやフェンス・審判台など)

・定められた位置にいる線審

・シングルスティックより外側部分

※ これらにボールが当たるとアウトオブプレーになります
プレーヤーの体がこれらに触れても問題ありません



選手は試合用のゲームウェアを着ましょう

・Tシャツでは試合ができません

・各メーカーが販売しているゲームウェアを確認しましょう



2 審判の方法

・主審がつかない試合(セルフジャッジ)→協会主催大会

・主審がつく試合

SCU(ソロ・チェアアンパイア)→高体連主催大会・国体

2人制審判(主審と副審)

線審3人制(主審をいれて4人制審判)

線審9人制→国際大会

3 試合中のマナー

・選手同士、試合前には気持ちよく挨拶をしてプレーをはじめましょう

・選手同士、試合終了後に握手でお互いのプレーをたたえましょう

・プレーを邪魔するような行為は禁止です

※ 大きな声を上げて相手を威嚇する行為

※ なかなか次のプレーに移らない(遅延行為)

※ 明らかなフォルトのボールを強打(返球)する行為



4 SCUのコール

・レット(プレーの途中で試合を止めなければならない場合)

・タッチ(ネットに触る、打球が衣服に触れるなど)

・コレクション(ミスジャッジ・ミスコールをした場合の訂正時)

・アウト、フォルト(選手が明らかなアウトを見逃した場合のみ)

・フットフォルト(サービスを打ち終えた瞬間に、大きな声でコールする。)

※ ベースラインとサイドライン、センターマークの仮想延長線上に触れたとき

※ サーブの時に歩きながら打つ(足が少しくらい動くのはよい)

5 SCUのアナウンス(別紙参照)

・ウォームアップ中

・試合開始とサーバーの紹介

・エンドチェンジとセットブレイク(残り30秒でタイム!)

・スコア(ゲーム中のスコアはサーバーを先にアナウンス)

・タイブレークのスコアはリードしているほうのスコアからアナウンス

6 1ポイントの流れ

①サーブが打たれる寸前にレシーバーがレシーブの構えをしているか確認する

②サーブの打球がネットに触れないか(レット)耳をすませ、ボールから目を離さない。

③ジャッジ(コール)後、失点した選手を視野に入れ、必要に応じてハンドシグナル、アイコンタクト

④ハッキリと大きな声でスコアアナウンスをし、スコアを記入する

(慣れるまでは スコア記入→アナウンス でも可)

7 レットのケース

(1) サービスのレット

・サービスされた打球がネットやストラップに触れた後、サービスコートへ正しく入った場合、または、ネットに触れた後、地面に落ちる前にレシーバー(パートナー)が触れた場合
「レット、ファースト(セカンド) サービス」とコール

・サーブ動作に入る前であれば、「ウエイト・ブリーズ」とコール
ボールを取り除いてからファースト(セカンド)サービス。

・サーブ動作に入った後であれば、ファースト・セカンドの関係なく
「レット、ファーストサービス」とコール



(2) インプレー中のレット

・ラリー中、となりのコートから、ボール等が転がってきた場合

「レット」とコールして、試合をとめる。ボールを取り除いてから

「リプレイ ザ ポイント ○ー○」とコール

※ただし、レットのコールが打球後であればその打球は有効となります

※ダブルスなど、すでに落ちていたボールをネット付近の選手が蹴飛ばすとレットとなります

(3) 持ち物を落とした場合

落とした瞬間に「レット、ファーストサービス」とコール

・処置は、1回目は警告、2回目は持ち物をベンチへ戻させる。

(本来は失点ですが、高体連の北信越以下の大会ではこのような処理に決まりました。)

正式には、「この次に持ち物を落としたら、その度に失点になります」とプレーヤーに伝え、その通り実行する。(ダブルスのペアが落としても失点。)



8 その他

・大会を通して、わからないこと、あるいは「審判の心得」を読んでわからないことがあれば、

必ずレフェリーあるいはアシスタントレフェリーの先生に質問し、自分が審判をする際に自信を持ってコートには入れるよう準備してください。

・選手として試合に出場する条件に、きちんとルールとマナーを知った審判ができること

・各校のチームで、そして選手一人ひとりが、責任を持って審判力の向上に努めてください。